



厚高インフォメーション



135

合宿ラッシュの厚高

新聞やテレビで連日話題になるこの暑さの中、厚真高校は三週間以上にわたる夏休みでした。この間、生徒たちの歓声も聞こえず、時間が止まったかのような静けさに包まれていたかというところ、実際はそうでもありません。なぜならこの時期の厚高は合宿ラッシュなのです。

本校の野球部、バドミントン部をはじめ、札幌月寒高のバスケットボール部や、札幌南高の剣道部も、厚高を練習場として汗を流していました。

その中でも、八月二日から行われた野球部の合宿は「ハスカップキャンプ」と呼ばれるもので、厚高野球部が中心となって近隣の高校に呼びかけ実現した合同合宿です。

今年で三年目となるこの合宿は、厚高の他に、千歳北陽高・北広島西高・えりも高・富川高・追分高の六校、総勢八十名を超える大規模なものでした。

三泊四日の間、生徒たちは寝食を共にしながら、ふだんなかなか接することのない他校生との交流を図ったのです。この経験は、それぞれの生徒たちの大きな糧となったことでしょう。



わたしたちの作品



上厚真小 5年
やまさき えりな
山崎 絵里奈さん (10)
「種から発芽までのスイカの成長を観察しました。毎日の記録は大変でしたが、芽がでてよかったです」

上厚真小 5年
たかだ さつき
高田 さつきさん (11)
「世界の国旗について調べました。ノートに国旗を描くのは苦労したけど、たくさん覚えることができました」

今月の記念日

10月13日は「豆の日」

おいしく健康的な食品である豆類や豆加工品の消費拡大と豆類関係業界の活性化を図ろうと、全国豆類振興会では、毎年10月13日を「豆の日」とし、この日を中心に、関係業界と協力してさまざまな広報活動を展開しています。

日本では古来から、陰暦8月15日の「十五夜」と9月13日の「十三夜」の月を愛でて、月見をする風習があります。月見のお供え物といえば、「月見団子」が定番ですが、昔は、ちょうどその季節に収穫される作物として「十五夜」には里芋を、「十三夜」には豆をお供えして食べる習慣がありました。「十五夜」は「芋名月」、「十三夜」は「豆名月」とも呼ばれています。

「豆の日」は、「豆名月」に豆を食べる風習にちなんで制定されましたが、陰暦9月13日の「十三夜」は、新暦では年によっては日付が変動してしまうため、日付は月遅れの新暦10月13日とされました。全国的にみても、10月中旬

は各種豆類の収穫時期でもあり、一部では新豆の出荷も始まります（「豆の日」を含む10月の1か月間は「豆月間」）。振興会では、小さな豆から大きな健康をキャッチフレーズに、豆類・豆加工品の消費拡大のための事業を行っています。豆のおいしさを活かしたオリジナルのアイデア料理を一般から応募する「豆！豆！料理コンテスト」もその一つ。昨年行なわれた第16回では、全国から2千を超える作品が寄せられました。

私たちの健康に欠かせないビタミンB群や食物繊維、鉄分などを供給してくれる豆は、毎日の食卓にも彩りを添えてくれます。関連団体の日本豆類基金協会（http://www.mame.or.jp/）では、コンテスト受賞作品のほか、料理の種類に応じたさまざまなレシピが紹介されており、豆の魅力を楽しむことができます。

*全国豆類振興会/日本豆類基金協会 <http://www.mame.or.jp/>

文芸あつま ◆短歌◆

子や孫も見つめて来たる柱時計ひ孫の代も時計よ止まるな
初めての運転なるにトラックに足場丸太を山より積み来
あらびぐまを避くるにラジオ鳴らし置くも一夜過れば効き目なしとふ

(本郷 木村 洋子) (本郷 矢部 慧子) (本町 飛谷 文子)

ぼくの・わたしの クラスじまん

ともだちっていいな

その106 とみのしょうがっこう 富野小学校



紹介してくれたのは…

富野小学校5・6年生のみなさん
(書いてくれたのは) 下川原 沙希さん (5年)



私たちの学級は、五年生が3人、六年生が1人、合計4人のテキパキ行動ができる元気なクラスです。

4人という少ないクラスですが、教室はとてもにぎやかです。このクラスは、下級生にやさしくして全員で協力しあうクラスです。授業中もにぎやかで少しうるさいような気もするけど、集中する時はとても静かで、電気の音やえんぴつの音がはっきり聞こえるくらい集中しています。

クラスにはおもしろくにぎやかにしてくれる人、絵が上手な人など、そしてたまにケンカをしても次の日にはいつもの間にか仲直りをしています。

いつも行事や勉強の時には集中し、真剣に取り組み、毎日一歩ずつ前に進んでいます。いつまでも仲が良く協力しあえるクラスでいたいと思います。

